素案

徳島県スポーツ推進計画

～スポーツで創る！とくしまレガシー～

平成　　年　月

徳　島　県

目　　次

第１章　計画の策定にあたって　…　１

１　計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　計画の性格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
３　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
４　スポーツの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
５　本県スポーツ環境を取り巻く社会の現状と課題・・・　３

第２章　計画の基本的な考え方　…　６

１　計画の基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
２　計画の基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
３　計画の施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

第３章　施策の推進　…　９

基本目標１「輝くとくしま」の推進
方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

基本目標２「元気なとくしま」の推進
方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

基本目標３「豊かなとくしま」の推進

方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

基本目標４「ふれあいとくしま」の推進

方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
施策一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

第４章　計画の推進体制　…３１

１　推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
２　役割分担・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

第１章　計画の策定にあたって

１ 計画策定の趣旨

本県では，２０１３（平成２５）年３月に本県のスポーツ推進の基本的な方向性を示す『徳島県スポーツ推進計画』を策定し，各市町村及び各スポーツ関係団体との連携を図りながら，「県民の豊かなスポーツライフ」の実現に向け，スポーツに関する施策の総合的な推進に努めてきました。

しかし，本県において，成人の週１回以上のスポーツ実施率，国民体育大会（国体）の天皇杯順位[*1]，糖尿病死亡率など，なお取り組むべき課題が残っています。

一方で，計画策定から５年が経過し，本県を取り巻くスポーツ環境に大きな変化が訪れています。

特に，「ラグビーワールドカップ２０１９」「東京オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」という，大規模な国際大会が３年連続で開催され，本県のみならず，日本国中のスポーツへの興味・関心が高まることが期待されます。これを「スポーツ王国とくしま」の推進，成人のスポーツ実施率向上やスポーツ無関心層ゼロなど「明るく活力あるスポーツライフ」の実現などの絶好の機会と捉え，新たな，魅力的で多岐にわたるスポーツ関連施策を推進するために，『徳島県スポーツ推進計画』を策定することとしました。

２ 計画の性格

（１）本計画は，県民の誰もが，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しみ，スポーツを通じて県民の元気を創造する「スポーツ王国とくしま」の推進を目指すための基本的な方向性を示したものです。

（２）本計画は，「スポーツ基本法」に基づき，本県スポーツ推進の基本的な方向性を示した計画であり，『第２期スポーツ基本計画』を参考に，『徳島県スポーツ推進条例』の趣旨にみられるような，本県の実情に合わせて策定したものです。

＊１　国民体育大会における総合順位のこと。

３ 計画の期間

本計画は，２０１８（平成３０）年度から概ね５年間を見通した計画とし，目標年次を２０２２（平成３４）年度とします。

４ スポーツの意義

スポーツは，次代を担う青少年の体力を向上させるとともに，他者を尊重しこれと協同する精神，公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い，実践的な思考力や判断力を育む等，人格の形成に大きな影響を及ぼすものです。

また，スポーツは，人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し，地域の一体感や活力を醸成するものであり，人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものです。

さらにスポーツは，心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり，健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠です。

そして，２０１１（平成２３）年３月１１日に発生した東日本大震災では多くの尊い命が奪われるとともに，未曽有の被害をもたらしました。現在も復旧・復興が大きな課題となっていますが，被災地でのスポーツによる支援活動は被災者や避難者を元気づけ希望を与えるなど，スポーツの持つ大きな力や，「社会の絆」の重要性が改めて認識されたところです。

ほかにも，スポーツ選手の不断の努力は，人間の可能性の極限を追求する有意義な営みであり，こうした努力に基づく国際競技大会における選手の活躍は，県民に誇りと喜び，夢と感動を与え，県民のスポーツへの関心を高めるとともに，地域社会に活力を生み出し，地域経済の発展に広く寄与するものです。

このように，スポーツは，体を動かすという人間の本源的な欲求に応え，精神的充足や楽しさ，喜びをもたらすというスポーツの内在的な価値とともに，青少年の健全育成や，心身の健康の保持増進，地域社会の再生，活力の創造など多面にわたる価値や意義を持つものです。

平成２３年８月に施行された『スポーツ基本法』においては，こうしたスポーツの価値や意義が明文化されるとともに，「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは，全ての人々の権利であり，全ての国民がその自発性の下に，各々の関心，適性等に応じて，安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ，スポーツを楽しみ，又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」とされたところです。

５ 本県スポーツを取り巻く社会の現状と課題

とくしまスポーツ憲章の制定

私たちがスポーツ文化に親しんで，生活を豊かに健やかにしていくためには，それぞれの体力や年齢，技術，興味・目的に応じてスポーツに取り組むことが大切です。

スポーツに取り組むということは，スポーツを「する」ことに加えて，観戦・応援する「みる」，あるいは，ボランティアとしてイベントを「ささえる」，アスリートとして力や技を「極める」など，スポーツがもたらしてくれる喜びや感動を共有することでもあります。

県民をあげて様々な形でスポーツに取り組んでいくことは，私たち一人一人の健康や健全な社会づくりに役立つとともに，本県のスポーツ人口の増加や競技力の向上に役立つと考えます。

県民の誰もが，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しみ，スポーツを通じて県民の元気を創造する，全国に誇りうる「とくしまスポーツ王国づくり」の実現を目指して，２００８（平成２０）年１月２４日，とくしまスポーツ憲章を制定しました。

徳島県スポーツ推進条例

スポーツの推進に関し，基本理念を定め，県の責務並びにスポーツ団体，県民及び事業者の役割を明らかにするとともに，スポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより，スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施し，もって県民の心身ともに健康な生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的として，徳島県議会で制定されました（２０１４（平成２６）年３月２０日徳島県条例第４３号）。

３年連続で開催される３大国際スポーツ大会

３年連続で開催される「ラグビーワールドカップ２０１９」「東京オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」はいずれも大規模な国際大会であり，本県のみならず，日本国中のスポーツへの興味・関心が高まることが期待されます。

地震防災対策

２０１１（平成２３）年３月１１日に発生した東日本大震災を契機として，本県においても切迫する南海トラフの巨大地震に対する防災・減災対策が喫緊の課題となっており，県はもとより各市町村において災害に強いまちづくりに向けた各種施策を展開しているところです。

こうした取組や被災地支援活動を通じて，多くの人々が地域社会の「絆」の重要性やスポーツの持つ力を再認識しました。また，発災時に避難場所や広域応援部隊の活動拠点となる体育施設の整備拡充や安全対策，避難生活の質の向上も必要です。

人口減少と少子高齢化

本県の人口は１９５０（昭和２５）年の８８万人をピークに減少傾向にあり，２０１５（平成２７）年１０月の国勢調査では７５万人，６５歳以上の高齢者の割合は約３１

％と全国平均（約２６．６％）を僅かに上回るペースで高齢化が進んでいます。国立社会保障・人口問題研究所の試算によると２０２０（平成３２）年には県民の約３人に１人が高齢者という極めて高齢化が進んだ社会が到来すると予測されています。

また，本県の合計特殊出生率については，２０１５（平成２７）年は１．５３と全国平均１．４５を上回っているものの，依然として低い状態が続いており，少子高齢化の急速な進行は，経済活力の衰退や地域社会の弱体化など，社会経済の様々な分野に大きな影響を及ぼす可能性が指摘されています。

さらに，核家族化の進行，共働き世帯の増加等により，家庭の教育力の低下が指摘されるとともに，子どもたちを地域で見守る，子育てを支えあうなどの地域社会のつながりの希薄化も懸念されています。

子どもの体力・運動能力の低下

経済や科学技術の発展がもたらした便利で快適な生活や生活様式の変化，また，少子化による遊び相手の減少や遊びの質の変化等により，子どもの運動遊びの機会が減少しています。また，運動をする子としない子の二極化も進んでおり，本県の子どもの体力・運動能力は全国平均より低位の状況にあります。子どもの体力・運動能力の低下は，競技力の低下につながるだけでなく，豊かなスポーツライフの形成を妨げる要因ともなる深刻な問題です。

体力・運動能力を高めるためには，幼児期からの望ましい生活習慣の形成や様々な運動遊びの体験を通じて，運動好きな子どもを育むことが重要であり，健康づくり，体力・運動能力の向上に向けて継続的な取組が必要です。

生活習慣病対策

がん，心疾患をはじめとする生活習慣病による死亡者は，全死亡原因の約６割を占めるなど増加傾向にあり，特に本県においては人口動態統計によると糖尿病死亡率が全国ワースト１位を脱却した（２０１４（平成２６）年～最新調査（２０１６（平成２８）年））ものの，依然として全国平均を上回っており，生活習慣病対策は重要な課題となっています。

生涯にわたり健康で活力に満ちた長寿社会を実現するためには，普段からバランスのとれた食事，適度な運動，十分な睡眠など規則正しい生活習慣を身に付けることが必要です。

特に壮年期以降においては，健康の維持・増進や健康寿命延伸のために，継続して運動・スポーツに親しむことが重要であり，そのための場所づくり，プログラムづくりなどの環境整備が必要です。

競技力の低迷

少子化の進行による競技人口の減少や，長引く景気低迷の影響等による企業スポーツの休廃部など，様々な要因により，本県の国民体育大会の天皇杯順位は近年４０位台後半と低迷しています。本県選手が全国大会や国際大会で活躍し，県民に夢と希望を与えられるよう，ジュニア期からの一貫した指導体制の構築や優れた指導者の育成など継続的な取組が必要です。

本県スポーツ環境の特性

春の風物詩として年々進化してきた中四国最大規模の「とくしまマラソン」の開催や健康志向の高まりから，普段からジョギングをするランナーやウォーキングをする方の姿を多く目にするようになってきました。

また，本県では豊かで美しい自然を活かして，サイクリング，ラフティング，トライアスロン，グラススキー，カヌー，サーフィン，パラグライダーなどのアウトドアスポーツが盛んであり，古くから本県に根付く「お接待の文化」によりこうしたスポーツイベントを支えるボランティアの方々も着実に増えてきたところです。

さらに，本県は「徳島ヴォルティス」「徳島インディゴソックス」といったプロスポーツチームを有しており，あらゆる世代がレベルの高い競技に身近に触れることができる環境にあり，プロ選手と県民との交流なども行われています。

「四国と近畿の結節点」という本県の地理的優位性を活かし，これらスポーツイベントを通じた交流人口のさらなる拡大や地域活性化の一層の推進が求められています。

加えて，ほぼ全市町村に設置された総合型地域スポーツクラブ（以下，総合型クラブ）[*2]は，地域のスポーツ活動に留まらず，子どもの体力向上や，住民の健康づくりなど，スポーツを通じて「新しい公共」を担い，地域コミュニティーの核として，さらには競技スポーツの拠点として発展する可能性を秘めています。

また，２０１２（平成２４）年４月に開校した鳴門渦潮高等学校は，本県初のスポーツ科学科と最新のスポーツ医・科学機器や充実した施設を有する，本県スポーツの拠点であり，これらを有効活用した競技力向上や指導者育成の取組の一層の充実が期待されています。

＊２　その地域の住民が主体となって，自ら運営・管理をする多種目・多志向・多世代のスポーツクラブ。

第２章　計画の基本的な考え方

１ 計画の基本理念

「徳島県スポーツ憲章」に基づく４つの基本目標により，本県スポーツ推進の基本的な方向性を示す『徳島県スポーツ推進計画』を平成２５年３月に策定し，スポーツに関する施策の総合的な推進に努めてきましたが，目前に迫った３大国際スポーツ大会を契機として，本県スポーツ環境を大きく変革させ，次世代に受け継がれていく本県ならではのスポーツレガシー（とくしまレガシー）を創出し，『新未来「創造」とくしま行動計画』が示す「スポーツ王国とくしま」への歩みを更に進（深）化させるため，新たな計画を策定することとし，基本理念を「県民の誰もが，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しみ，スポーツを通じて県民の元気を創造する，全国に誇りうる『スポーツ王国とくしま』の推進」とします。

２ 計画の基本目標

この基本理念を具現化するため，第１期計画でもあった，「とくしまスポーツ憲章」にのっとった４つの基本目標を継続して用います。

・世界にはばたくトップアスリートが育つ「輝くとくしま」の推進
・運動好きで健やかな子どもたちが育つ「元気なとくしま」の推進
・生涯にわたってスポーツを楽しむ「豊かなとくしま」の推進
・親睦や交流の場としてスポーツに親しむ「ふれあいとくしま」の推進

加えて，第２期計画においては，「徳島ならでは」の新しい視点を導入し，レガシーの創出という観点からも，整理をしました。

基本目標１　「輝くとくしま」の推進

スポーツは，人間の可能性への挑戦であり，全力で打ち込むひたむきな選手の姿は，多くの県民に大きな夢や感動を与えてくれます。そして，県民の明るく豊かで，活力ある社会の実現に寄与します。そのために，各競技団体や関係機関との連携・協働を図り，ジュニア期からの一貫指導体制づくりに努め，国民体育大会をはじめとする各種全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際大会で活躍できるトップアスリートや指導者が育つ「輝くとくしま」の実現を目指します。

基本目標２　「元気なとくしま」の推進

運動やスポーツは，体力の向上はもとより物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっており，心身の健全な発達に大きく寄与するものです。

子どもたちが，学校体育や様々な運動の機会を通して，運動やスポーツの楽しさ，喜びを味わえるようなスポーツライフの基盤づくりに努めるとともに，安心してスポーツ活動が行える環境づくりに取り組みます。

そして，家庭・学校・地域が連携し，運動好きで健やかな子ども達を育成することにより，「元気なとくしま」の実現を目指します。

基本目標３　「豊かなとくしま」の推進

生涯スポーツ社会の実現に向けては，スポーツを「する」ことだけでなく，「みる」「ささえる」と様々な方向からスポーツに参画することが大切です。

そのため，地域スポーツの拠点となる総合型クラブの育成・充実を図るとともに，その機能を最大限に活用し，県民一人ひとりがスポーツに親しめる健全な社会づくりに取り組み，それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動を推進し，「豊かなとくしま」の実現を目指します。

基本目標４　「ふれあいとくしま」の推進

スポーツを手段とした地域づくりは，各地域の特性や自然環境を活用し，地域のにぎわいづくりや楽しみにつながります。

また，スポーツイベントの開催や地元チームの活躍は，私たちに大きな夢と感動をもたらしてくれます。本県のスポーツを振興するため，プロスポーツ等と連携し，積極的な応援や，本県の魅力発信につながるスポーツボランティアの養成に取り組み，身近で開催されるスポーツイベントに応援やボランティアとして気軽に参加できる「ふれあいとくしま」の実現を目指します。

このように，県民をあげて様々な形でスポーツに取り組んでいくことは，私たち一人ひとりの健康や健全な社会づくりに役立つとともに，本県スポーツ人口の増加や競技力の向上に役立ちます。これが，県民の誰もが，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しみ，スポーツを通じて県民の元気を創造する，全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」の推進になると考えます。

３ 計画の施策体系

みんなが誇れるスポーツ王国

輝くとくしま の推進

世界にはばたく
トップアスリートが育つ

トップアスリートの育成を目指した一貫指導体制の構築による，
国内外で頂点を極める選手や指導者の育成

（1）県民の希望，誇りとなるトップアスリートの輩出
（2）新たな有力競技の創出
（3）アスリートに対するサポート体制の充実

施策目標
・国民体育大会天皇杯の順位（30位台）
・パラリンピック等障がい者スポーツ育成選手 （3人／年）

※一例

元気なとくしま の推進

運動好きで健やかな
子どもたちが育つ

小さな時から，運動の楽しさや喜びを味わわせることによる，
運動好きな資質とスポーツを楽しむ習慣を身につけた子どもの育成

（1）運動の楽しさ，喜びを実感し主体的に取り組む児童の育成
（2）学校における体育・スポーツ環境の整備
（3）活気あふれる運動部活動の推進

施策目標
・『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』で全国平均を上回る（17競技）
・県高等学校総合体育大会の参加率（50%）

※一例

豊かなとくしま の推進

生涯にわたって
スポーツを楽しむ

それぞれの体力や年齢，技術，興味，目的に応じ，スポーツを「する」
「みる」「ささえる」と様々な方向から，主体的に参画できる環境の充実

（1）障がい者，高齢者，女性がスポーツに参加しやすい環境づくり
（2）無関心層をゼロにするスポーツ習慣化
（3）スポーツで地域を支える基盤づくり

施策目標
・成人の週1回以上のスポーツ実施率（65%）
・1年間に1度もスポーツをしたことのない者（0%）

※一例

ふれあいとくしま の推進

親睦や交流の場として
スポーツに親しむ

地域の特性や自然環境を活用した様々なスポーツイベントの充実や，
それを支えるスポーツボランティアの育成

（1）ソフト・ハード一体となった環境整備による新たなスポーツ聖地の創出
（2）文化・食と連携したスポーツツーリズムによるとくしまの魅力発信
（3）新たなスポーツ交流を通じた地域活性の醸成

施策目標
・3大国際スポーツ大会の誘致対象競技に関する施設の整備（推進）
・海外競技者との国際スポーツ交流件数（5件）

※一例

第３章　施策の推進

基本目標１　「輝くとくしま」の推進

世界にはばたくトップアスリートが育つ

「輝くとくしま」の推進

＜方向性＞

１．県民の希望，誇りとなるトップアスリートの輩出
２．新たな有力競技の創出
３．アスリートに対するサポート体制の充実

＜現状と課題＞

▶ 国際大会への（選手以外も含めた）参加

東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模な国際大会において，選手，指導者，審判などとして本県から出場・参加する人が増加することにより，飛躍的な競技力向上やスポーツの振興が期待されます。

▶ 国民体育大会（国体）

本県では，国民体育大会の天皇杯順位（男女の総合成績）が，１９９９（平成１１）年度（熊本国体）より４０位台と低迷が続いています。

その原因として，少子高齢化，興味・関心の多様化や競争心の希薄化，経済不況等の社会変化による学校運動部競技者数の減少や企業スポーツ休廃部，施設・備品の老朽化等が挙げられます。

そのような中，競技団体を重点的に強化したり，次世代アスリートを計画的・継続的に一貫して発掘・育成・強化を行うために「一貫指導体制」を確立したり，専門性を有するスポーツ指導者（医科学的なサポートも含む）活躍の場を設けること等が必要です。

▶ 障がい者トップアスリート

本県からパラリンピック等障がい者スポーツ大会への出場選手を輩出することで，県民が一丸となって支援・応援し，パラリンピックの機運を盛り上げるとともに，県民の絆を深め活力ある社会を創造することができます。また，次の世代へも，自己の障がいを乗り越えて限界にチャレンジしていく「勇気」や「希望」を与える絶好の機会となります。

全国障害者スポーツ大会へ本県選手団を派遣することにより，県民の障がい及び障がい者に対する理解を深めることができ，また，障がい者の社会参加が促進されます。

▶ 企業スポーツ

本県では，多くの企業に属する選手が自立的な活動により活躍しています。また，組織的な活動により陸上競技のオリンピック選手を輩出した企業チームもありますが，このような例はまだ多くはなく，企業スポーツをより活性化させるためにはさまざまな支援が必要です。

▶ アスリートのキャリア形成支援

アスリートのキャリア形成支援は，国や個別の中央競技団体が進めていますが，本県在住の成年競技者を増やすためには自治体からも支援対策が必要です。

▶ プロスポーツ

本県は，「徳島ヴォルティス」（サッカー）「徳島インディゴソックス」（野球）という２つのプロスポーツチームを有しており，あらゆる世代がレベルの高い競技に触れることができる環境にあります。これは，競技力の向上において非常に重要なポイントです。

ヴォルタくんとティスちゃん

Mr.インディ

▶ 医科学サポート

医科学サポートスタッフが不足しており，指導現場では，手探りで指導が進んでいる例も少なくありません。

アクシデント時の適切な初期対応ができるスタッフの派遣や大会等への帯同を必要としているチームは多くあります。

▶ アスリートのコンディションケア

選手及び指導者が，予防法や対処法を知らずに無理を続けてしまうと，ケガや体調不良などを招き，目標としている大会等で高いパフォーマンスが発揮できないケースがあったり，選手寿命を縮めるおそれがあります。

上記の医科学サポートスタッフのみでなく，コンディショニング維持のケアができるスタッフの派遣や大会等への帯同を必要としているチームもあります。

▶ 女性アスリート

オリンピックや国体における「女子種目」の追加により，女性がスポーツで活躍できる機会が増えてきています。

２０２０（平成３２）年の東京オリンピック・パラリンピックに向け，代表候補などの女子トップ選手については，ＪＯＣ・ＪＰＣ[*3] 等からの支援が強化されていますが，その他大多数の「一般の女子選手」や「その指導者」には，十分な支援が届いていない現状があるので，国の支援策のモデルを参考に，自治体が自ら施策を展開していく必要があります。

▶ 鳴門渦潮高校でのフィジカルチェック

鳴門渦潮高校では２０１２（平成２４）年度の開校時から国体選手等を対象にフィジカルチェックを行っており，被測定者へのフィードバックについて好評を得ています。

＊３　それぞれ Japan Olympic Committee（日本オリンピック委員会），Japan Paralympic Committee（日本パラリンピック委員会）の略

＜施策の展開＞

◇　オリンピックなど国際スポーツ大会に出場する選手や，運営や審判等で参加できる人材を増やしていくことができるよう，中央競技団体実施の育成・強化事業及び資格取得の選考会や研修会に参加するための支援をする。

◇　パラリンピック及びデフリンピックへの出場選手輩出を目指し，選手及び団体の育成，強化を図るため，国際大会や全国大会で活躍が期待される選手等に対し，海外遠征費等，競技力の向上に関する経費を助成する。

◇　国体で入賞が期待できる優秀な競技者を選手兼指導者として雇用し，競技力向上を図る。

◇　ふるさと選手[*4] を活用した合宿や練習会等，強化事業への支援を行う。

◇　直近の国体での実績等を考慮し「選択と集中」による，競技団体の選手強化を支援する。

◇　優れた素質を持つジュニア選手の発掘から，トップアスリートまで切れ目のない強化体制を構築するため「競技者育成プログラム」の普及及び一貫指導を実施する体制を整備する。また，ジュニアトップ選手に対する支援により県外への流出を阻止する。

◇　老朽化等の環境を改善し，競技力向上に実効性のある備品・消耗品購入等の整備を行う。

◇　国際大会や全国大会で優秀な成績をあげた選手や指導者の功績を顕彰する。

◇　全国障害者スポーツ大会へ本県選手団を派遣することで，県民の障がい及び障がい者に対する理解を深め，障がい者の社会参加を促進する。

◇　企業側，選手側，双方へのサポート方法や体制のモデルケースを創る。

◇　有力スポーツ選手を新たに雇用する企業に対する助成や，有力な県内大学部活動に対する強化費助成を行う。

◇　若手指導者及び審判員など，スポーツ活動を支える担い手不足解消のための取組を行う企業，大学，競技団体等を支援する。

◇　地域に根ざし，県民から愛される地域密着型のプロスポーツ団体の選手やコーチ，地元企業スポーツ選手による「スポーツ教室」などを開催する。

◇　プロスポーツ団体や地元企業スポーツ団体と競技団体，小・中・高等学校や特別支援学校，大学との積極的な交流により，競技力の向上を図る。

◇　オリンピック選手やプロ選手等を招へいし，講演や講習会等，県内のジュニア選手が直接指導を受ける機会を設け，競技の普及発展や競技力向上を図る。

◇　医科学サポートスタッフが，日頃の練習場に訪問し，傷害防止への助言や実際のケア，課題検証や改善策の提案等を行う。

◇　ジュニア期からトップアスリートまでのドーピング防止教育・研修活動を推進するとともに，科学的サポートを通じて競技力向上を図ります。

◇　アスレティックトレーナー[*5] 等専門的な資格を有する指導者を雇用し，各競技団体が行う強化練習や学校部活動，大会等へ派遣することにより，競技力向上を図る。

◇　産学民官の連携により，女子選手に対するサポート体制を構築する。

＊４　国体において，現住所，勤務地以外に，卒業中学校・卒業高校（どちらか）の所在地が本県にある選手が，本県の代表選手として出場することができる制度。

＊５　スポーツ外傷・障害予防，緊急処置，リハビリやトレーニング，コンディショニング等を行う有資格者。

◇　女子選手に起こりやすい疾病や傷害について，予防やパフォーマンスを落とさないための対処法に関する知識や情報を得るための，選手や指導者，保護者を対象としたサポートセミナーを開催する。

◇　選手のメディカルチェックやフィジカルチェック，メンタルトレーニングの実施を通じて，国体選手のコンディショニングと競技力向上に役立てる。

＜施策一覧＞

◎目指せ！オリンピック夢はぐくみ事業

◎競技スポーツ重点強化対策事業
　国体選手強化対策推進事業
　スポーツ科学推進事業

◎スポーツコーディネーター活用事業

◎トップアスリート発掘・育成推進事業

◎徳島育ち競技力向上プロジェクト
　①徳島育ちトップアスリート養成事業
　②スポーツ拠点づくり推進事業
　③スポーツ指導者養成事業
　④次世代型徳島ユース選抜育成事業

◎徳島県スポーツ賞
　「グランプリ賞」「ドリーム賞」「奨励賞」でスポーツに関する功績をたたえる

◎あわ女アスリート医科学サポートアシスト事業

＜目標＞

☆東京オリンピック・パラリンピック日本代表として国際大会に出場・参加できる本県ゆかりの選手，指導者
　　１４人

☆国体天皇杯
　　３０位台

☆国体入賞数
　　個人…４５
　　団体…７

☆高校総体（全国大会）もしくは同大会規模での入賞数
　　増加

☆パラリンピック等育成選手
　　３人／年

☆全国障害者スポーツ大会への本県選手団の派遣
　　継続

☆徳島県スポーツ賞

推進

☆キャリア支援としての企業・選手サポートのモデル

５件（累計）

☆プロスポーツ選手やコーチなどによる「スポーツ教室」

２００回／年

☆各学校や競技団体のチームへの医科学サポートスタッフのサポート件数

延べ７０件／年

☆女性アスリート支援セミナーの開催

４回／年

基本目標２　「元気なとくしま」の推進

運動好きで健やかな子どもたちが育つ

「元気なとくしま」の推進

＜方向性＞

１．運動の楽しさ，喜びを実感し，主体的に取り組む児童の育成
２．学校における体育・スポーツ環境の整備
３．活気あふれる運動部活動の推進

＜現状と課題＞

▶ 運動する子としない子の二極化傾向

２０１６（平成２８）年度『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』*6 における運動・生活習慣に関する調査結果からは，体育の授業を除いた１週間の総運動時間や休みの日に運動する時間が全国平均に比べて短いことが伺えます。

また，２０１５（平成２７）年度と比べて１週間に４２０分以上運動している子どもの割合が増えている一方で，体育の授業を除いた１週間の総運動時間０分の子どもの割合も増える（小学５年生女子を除く）結果も見られ，運動をする子としない子の二極化が進んでいます。

▶ 総合型クラブを活用した子どもの運動習慣化

子どもたちが，健やかに成長していくためには，家庭・学校・地域がそれぞれの役割や取組を理解し，また大人が「今，何をするべきか」を考え行動し，地域ぐるみで子どもたちを支え育むことが大切です。

地域においては，ほぼすべて（９１．７％）の市町村に設置されている総合型クラブが，子ども向けや親子で行う定期的なスポーツ教室や，スポーツフェスタのような交流イベントを実施し，各地域の実情に合わせたプログラムの充実を図ることにより，子どもの運動習慣づくりを一層促進することが必要です。

▶ 子どもの体力向上

『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』によれば，本県の児童生徒の体力・運動能力の状況は，２０１６（平成２８）年度において，中学２年生は過去最高値，小学５年生は２０１５（平成２７）年度に過去最高値を記録するなど，着実に改善しています。しかしながら，全国と比較すると，２０１５（平成２７）年度の小５女子が体力合計点で初めて全国平均値を上回ったものの，各種目ごとに見ると，まだ全国平均値に届いていない種目が少なくなく，依然として課題も多くあります。

また，児童生徒の「体力向上」並びにその土台となる「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」をより一層推進する必要があります。

＊６　スポーツ庁が国民の体力・運動能力の現状を明らかにし，体育・スポーツ活動の指導と，行政上の基礎資料とするため，小学校５年生と中学２年生を対象に，毎年実施する体力テスト

体力・運動能力結果（全国平均との比較）

小学校第5学年男子

新体力テスト		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mｼｬﾄﾙﾗﾝﾃｽﾄ	50m走	立ち幅とび	ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ投げ	体力得点合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
男子	H28	16.31	18.95	32.38	42.74	49.4	9.49	150.8	22.44	53.24
全国平均	H28	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.4	22.42	53.92

小学校第5学年女子

新体力テスト		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mｼｬﾄﾙﾗﾝﾃｽﾄ	50m走	立ち幅とび	ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ投げ	体力得点合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
女子	H28	16.03	18.01	37.13	40.58	39.04	9.74	144.8	14.22	54.94
全国平均	H28	16.13	18.6	37.21	40.06	41.29	9.61	145.3	13.88	55.54

中学校第2学年男子

新体力テスト		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mｼｬﾄﾙﾗﾝﾃｽﾄ	50m走	立ち幅とび	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ投げ	体力得点合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
男子	H28	29.64	25.93	42.65	51.87	405.2	84.28	7.96	195.6	20.81	41.96
全国平均	H28	28.91	27.46	43.06	51.93	391.7	86.24	8.03	194.7	20.59	42.13

中学校第2学年女子

新体力テスト		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mｼｬﾄﾙﾗﾝﾃｽﾄ	50m走	立ち幅とび	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ投げ	体力得点合計
	単位	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
女子	H28	24.27	21.86	45.53	46.31	302.2	54.53	8.84	168.7	12.88	49.12
全国平均	H28	23.75	23.48	45.46	46.6	288.5	58.8	8.83	168.3	12.85	49.56

▶ 次世代のスターを育てる学校スポーツ施設のレベルアップ

３大国際スポーツ大会の開催は，県民のスポーツへの関心を高め，「競技力の向上」「地域活性化」「生涯スポーツの振興，健康増進」といった本県の抱える課題解決の絶好の機会と捉えることができます。この機会に，県民誰もが「レガシー」を実感できるよう，スポーツ施設のレベルアップを図る必要があります。

▶ 新たな有力競技の創出

中学校及び高等学校の競技力向上を図るべく，中学校においては２０１４（平成２６）年度より，高校においては２００６（平成１８）年度よりスポーツ指定校制度を実施してきました。その結果，全国大会で入賞する競技や安定して活躍する競技も出てきましたが，結果が出ている競技は限られています。新たに活躍が期待できる競技を育成し，運動部活

動全体の活性化や競技力の向上につなげる必要があります。

▶ 学校におけるスポーツ時の安全確保

体育，保健体育の授業や運動部活動等，学校体育に関する活動において，様々な事故が起こっています。子どもたちが安心して活動できるような環境や安全面での配慮や工夫が求められています。

▶ ２０２２インターハイを見据え，学校の特色を生かした運動部の育成

３大国際スポーツ大会に続く，２０２２（平成３４）年には四国ブロックで「全国高等学校総合体育大会」の開催が予定されています。多くの生徒がこの大会に関わるように，高校生のスポーツに対する興味・関心を高める必要があります。

▶ 部活動指導員

２０１７（平成２９）年４月１日より，学校教育法施行規則が一部改正され，部活動指導員の職務等が示されました。その中では部活動指導員に対し，「実技指導」以外にも，「部活動の管理運営」や「学校外活動の引率」も認められていることから，学校における教員の負担軽減等，効率的・効果的な活用が期待されます。

▶ 合同部活動

全国的に，生徒数の減少や運動部活動離れによる部員不足により，単独では試合に出場できない運動部があります。

本県においても，中学校・高等学校の各種大会に複数校合同のチームが出場しています。

中学校では，２００３（平成１５）年度より県・四国・全国中学校体育大会について，競技は限られていますが，各学校長の判断により，合同チームの編成等で大会に出場することが可能となりました。

高校では合同運動部の大会出場機会を与える方向で検討がなされていますが，全国高等学校総合体育大会が学校単位での出場であるため，その予選も含めて出場できない現状があります。

▶ 障がいのある子どもとスポーツ

障がいのある児童生徒には，一人一人のニーズに応じて適切な運動の機会を保障し，体を動かす喜びを味わったり，スポーツを通して地域等と交流を深めたりすることで，生涯を通じて健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送るための基礎を培う取組を進めます。

＜施策の展開＞

◇　小学校１年生から４年生までの児童を対象に，体育授業へのサポート事業等を活用し，学校の課題や運動の苦手な児童に視点をおいた授業を推進し，運動好きの児童を増やす。

◇　総合型クラブにおいて子どもがスポーツに親しむことのできる機会の充実を図り，運動習慣の体得を促進する。

◇　総合型クラブが市町村等と連携し，学校の体育活動等にスポーツプログラムの提供や指導者を派遣することにより，子どもを対象にしたプログラムを充実させることで，幼児・児童生徒のスポーツ機会の充実を図るとともに，子どもや保護者の総合型クラブに対する社会的認知度の向上を図る。

◇　キッズスポーツインストラクター等の指導者を総合型クラブや保育所，幼稚園，放課後児童クラブ等に派遣し，運動や外遊び等の充実に努める。

◇　小・中学校対象で，学校ごとに，各校の課題に応じた体力向上への取組をより一層推進する。

◇　休み時間や家庭でできる運動の提供と運動の継続を支援するとともに，「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」に向けて，保護者への啓発，児童生徒の発達段階に合わせた取組を推進する。

◇　ＩＣＴ[*7] によるランキングシステムを活用し，友人や家族と一緒に手軽にできる運動を行い，記録向上に向け繰り返し取り組み，運動習慣の確立を図る。（県内公立小・中学校児童生徒（県内特別支援学校の小学部・中学部を含む））

◇　「全国トップレベル」もしくは「県内唯一の部活動」がある県立学校を対象として，各学校に設置しているスポーツ施設を公式大会開催や合宿誘致につながるワンランク上の施設となるよう整備し，競技力の向上や競技団体等への一般開放につなげるとともに，防災機能も強化し，地域に根ざしたスポーツ拠点として未来に継承する。

◇　トップスポーツ校を指定し，各種全国大会や国民体育大会において活躍できる運動部を育成する。

◇　トップスポーツ校が指定されていない競技に対し，支援を行う。

◇　選手の体力測定や，トレーナー・栄養士による診断を行い，それを今後のトレーニングに生かし，パフォーマンスの向上につなげたり，運動能力の優れた小・中学生に対し，様々な競技を体験させることで，新たな競技で活躍する可能性を見いだす事業を行い，競技力の向上及びスポーツの振興・発展につなげる。

◇　鳴門渦潮高校のスポーツ拠点校としての機能強化を図り，施設・設備の活用推進を行う。

◇　熱中症の講習会を始めとした，学校事故防止に関する講習会の実施や啓発を行う。

◇　２０２２インターハイを見据え，学校の特色を生かした運動部活動を育成する。

◇　「する」「みる」「ささえる」等のスポーツへの様々な関わり方のなかで，運動部活動への入部率や各種スポーツ大会への参加率を高めるとともに，運動部以外の人たちにもスポーツに関わってもらえるよう，様々な機会を通じて，広報･啓発を行う。

◇　部活動指導員の効率的・効果的な活用を図る。

◇　複数校合同運動部の効果的な運用について，中学校体育連盟を通じ働きかけていく。

◇　高校の複数校合同運動部については，高等学校体育連盟を通じて大会出場の実現に向けて働きかけていくとともに，合同練習の実施を推進し，部員数不足や専門的指導者不足に対応していく。

◇　障がいのある人もない人も共に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を通して，スポーツの楽しみや喜びを伝え，子どもが生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに，特別支援学校と小・中学校，高等学校及び地域の人々との交流を図る。

＊７　Information and Communication Technology の略。ここではインターネットを利用したランキングのこと。

＜施策一覧＞

◎体力向上計画の作成（評価）

各学校が作成する「体力向上計画」から県内各校の実態や課題を把握する。

◎はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）

県内小学校の体育授業に指導主事等を派遣し，子どもの実態に応じた体力向上への取組を支援する。

◎さわやかサポート（運動・生活習慣確立のための指導者派遣事業）

県内幼稚園・小学校・中学校のＰＴＡを対象に講師を派遣し，家庭・地域での体力つくりや健康教育・食育への取組を支援する。

◎体力アップ１００日作戦（小学校）

児童が，体力向上と運動習慣の確立，望ましい生活習慣の形成につながる目標を設定し，期間中１００日の実施を目指す。

◎プラス１０００歩チャレンジ（小学校高学年）

体力向上と運動習慣の確立に向け，歩数計を活用し，取組開始時よりも，平均歩数１０００歩増加を目指す。

◎Ｎｅｗキッズ＆ジュニアわんぱくランキング（小学校・中学校）

◎中学校トップスポーツ競技育成事業

◎徳島トップスポーツ校育成事業

◎あわスポーツ・ブルーミング戦略事業

小学校体育連盟，中学校体育連盟，高校体育連盟を支援する。

◎渦潮スポーツアカデミー推進事業

＜目標＞

☆小学校５年生，中学校２年生の『運動能力調査』で，全国平均を上回る種目数

３４種目中１７種目

☆ＩＣＴランキングシステムの参加チーム数

３，０００チーム以上

☆徳島科学技術高校のアーチェリー，ウエイトリフティング，弓道の３競技施設一体整備

整備完了（平成３０年度）

使用開始（平成３１年度）

☆全国高等学校総合体育大会（高校総体）等での入賞数

増加

☆学校事故防止に関する講習会

推進

☆徳島県高等学校総合体育大会の参加率

５０％

基本目標３　「豊かなとくしま」の推進

生涯にわたってスポーツを楽しむ
「豊かなとくしま」の推進

＜方向性＞

１．障がい者，高齢者，女性がスポーツに参加しやすい環境づくり
２．無関心層をゼロにするスポーツ習慣化
３．スポーツで地域を支える基盤づくり

＜現状と課題＞

▶ 障がい者のスポーツ参画に向けて

障がい者の体力の維持増強を図るとともに，自立と社会参加の推進を図ることは非常に重要です。また，そうした目的を達成する上で，障がい者がスポーツを通し，交流を図る機会を持つことは非常に効果的です。

障がい者スポーツの推進体制を整備するため，幅広い関係者の支援により，行政と両輪となって本県の障がい者スポーツの推進母体となる「徳島県障がい者スポーツ協会」を２０１６（平成２８）年に設立しました。

Fig.障がい者スポーツ協会設立式の様子

障がいの有無にかかわらずスポーツを行うことができる社会を実現するため，地域において障がい者が継続的にスポーツに参加できる環境の整備も重要です。本県は，２０１５（平成２７）年度より，障がいの有無，年齢，性別等にかかわらず，より重度の障がい者の参加も含め，地域社会との交流等も踏まえた「出張スポーツ教室」を開催し，障がい者スポーツの普及，促進を図ってきました。また，障がい者の活動・交流拠点である障がい者交流プラザの機能強化により，障がい者スポーツの促進を図る必要があります。

障がい者のスポーツ振興を図るため，様々な競技種目において，大会や講演会・教室等へ障がい者スポーツ指導員の派遣・指導を実施する必要があります。

▶ 生涯スポーツ機運の醸成

「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」の開催を契機とし，生涯スポーツの機運を高め，そのレガシーを継承していくための方策が必要となります。

▶ 運動と長寿

高齢者だけでなく，世代間・地域間のふれあいや交流を図り，「ぬくもりと活力のある長寿社会」づくりを推進するため，徳島県健康福祉祭の開催や全国健康福祉祭における選手の派遣等を行っているところですが，更なる参加者の増大を図る必要があります。

▶ 自転車王国とくしま

県内では，２００９（平成２１）年度より「自転車王国とくしま」と銘打ち，いくつかのサイクルイベントを開催しています。その中には，「自転車王国とくしま」の取組をおこなう前から続くイベントもあります。

４大サイクルイベントの参加者が増えている一方で，観光の要素を取り入れたポタリングなどの実施により，新たなサイクリストの発掘につなげていく必要があります。

Fig.「四国の右下」ロードライド

Fig.ツール・ド・にし阿波

▶ サイクリングアイランド構想

全国知事会において愛媛県が提唱してきた「サイクリングアイランド四国」構想ですが，２０１７（平成２９）年に四国を一周する「１，０００キロルート」が発表されました。今後，定着に向けて四国四県が取り組んでいきます。

▶ 女性のスポーツ参画に向けて

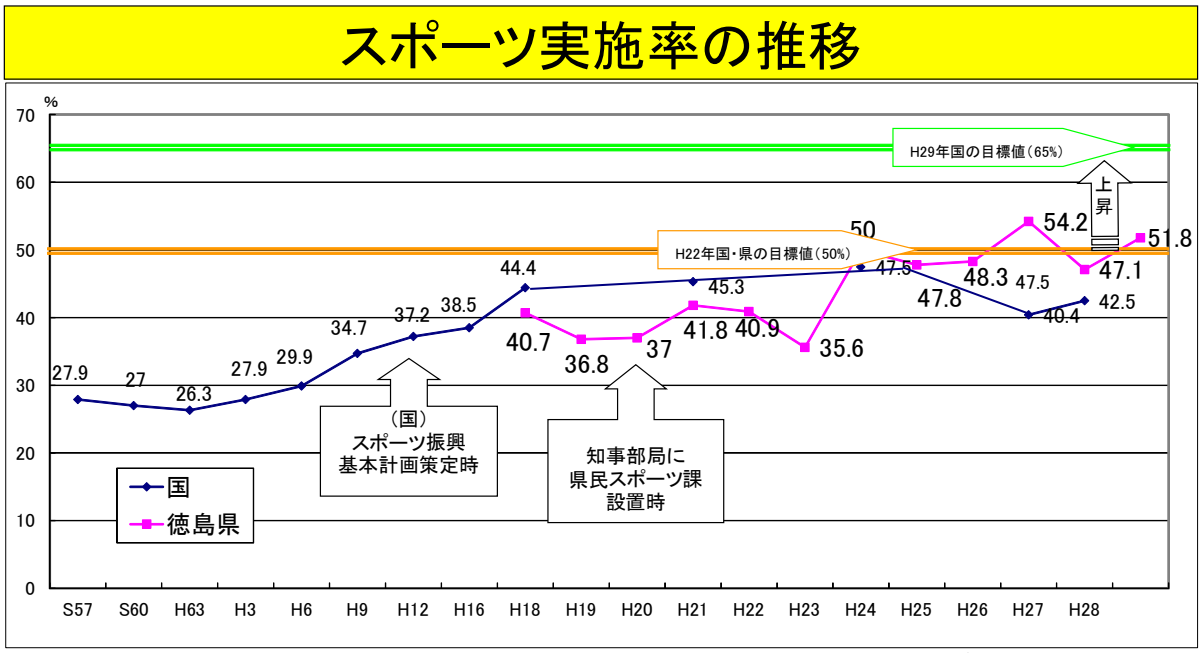
女性がスポーツに参画しやすいよう，女性のニーズや取り組みやすい環境等について現状と課題の洗い出しを行います。

▶ スポーツ実施率

本県の「オープンとくしまｅ－モニターアンケート」[*8] では，週１回以上の運動やスポーツを行う成人の割合は５０％前後で推移しており，上昇傾向にあるものの，前回計画において目標とする６５％に達しませんでした。

各人の生活様式も考慮しつつ，定期的な運動やスポーツ習慣の意識づけを図るため，家族や仲間などと気軽に参加や活動ができるスポーツ環境の整備が求められています。

Tab.本県における成人の週１回以上のスポーツ実施率の推移



国のスポーツ実施率：　平成24年「体力・スポーツに関する世論調査」に基づく文部科学省推計」
平成27年「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査に基づく文科省推計」
平成28年度「スポーツの実施状況に関する世論調査」
県のスポーツ実施率：「オープンとくしまe-モニターアンケート」に基づく推計」

▶ スポーツに参画する機会の確保

すべての県民が，その自発性のもとに，各々の関心や適性等に応じて，日常的にスポーツに親しみ，スポーツを楽しみ，またはスポーツを支える活動に参画できる機会の確保が求められています。

県民が生涯にわたりスポーツに親しむためには，スポーツイベントを展開する各種団体との連携・協働のもと，スポーツに関する効果的な情報発信を行うことが必要です。

▶ スポーツ環境に応じた指導者

スポーツに関わる人材が不足しています。特に，若手指導者の育成が進んでいない現状があり，専門性のある指導や普及活動の担い手が不足しています。

子どもから高齢者まで，また，障がいの有無に関わらず，自主的かつ積極的にスポーツに取り組める環境づくりが求められており，それぞれのスポーツ環境に応じた指導者の養成や確保，情報提供の充実が必要です。

▶ 総合型クラブ

県内各市町村において総合型クラブは２２市町村で設立されており，本県の市町村数に対するクラブ設立数は高くなっています（９１．７%）。

また，２０１４（平成２６）年度まではクラブ会員数も順調に増え，県全体で９，１４１人がいずれかの総合型クラブに所属していました。

しかし，現状は，高齢の会員が多く，過疎地域においては総合型クラブまでの移動手段の確保が困難であるため，２０１５（平成２７）年度には県全体で会員減（９，１１５人），２０１６（平成２８）年度には若干もちなおしました（９，３４１人）が，多くのクラブではすでに会員減へと転じていることから，これ以上の会員数は望みづらくなっています。

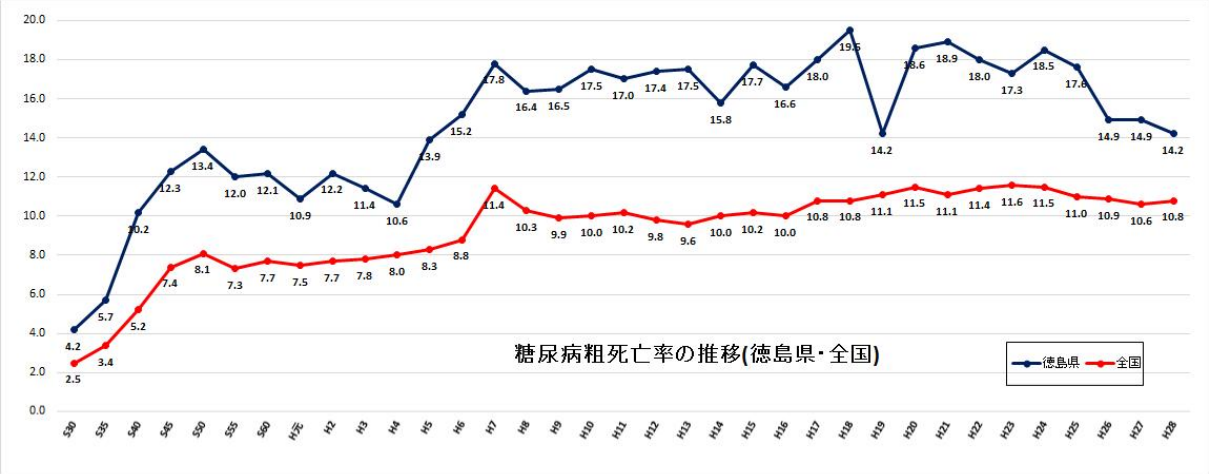
＊８　本県が行う広聴事業。一般公募，市町村長推薦合わせて２００名で構成され，県政に関するアンケートに回答してもらい，結果を施策や計画などに反映させていこうとするもの。

また，独立行政法人日本スポーツ振興センターの，総合型地域スポーツクラブの創設を支援する助成金の対象期間が終了するなど，外部資金に頼らないクラブ運営へ移行していく中で，財源不足から教室やイベントの縮小・終了を余儀なくされ，会員が集まらなくなっています。

今後，各総合型地域スポーツクラブの自主的・主体的な運営を実現するために，法人格の取得を促していきます。

▶ 運動と健康

本県における糖尿病死亡率は，全国と比較して高い水準で推移しています。糖尿病を始めとする生活習慣病を予防するためには，適切な食生活とあわせて，運動習慣の定着及び運動不足の解消を図るための環境整備の推進を継続する必要があります。



Tab.徳島県の糖尿病粗死亡率の推移

＜施策の展開＞

◇　徳島県障がい者スポーツ協会の関係者間のネットワーク形成を図りながら，障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境づくりや競技力の向上に取り組むことにより，総合的な障がい者スポーツの振興を図り，障がい者の健康増進や社会参加を促進するとともに，障がいに対する県民の相互理解を深め，もって活力ある共生社会の実現に貢献できるよう，協会の運営を補助する。

◇　障がい者のスポーツ振興を図るため，障がい者スポーツ指導員を配置，派遣し，障がい者スポーツへの参加促進や技術力の向上を図る。

◇　これまで出張スポーツ教室で取り組んできた，ボッチャ競技の練習成果を発表する場として「レクリエーション・ボッチャ大会」を創設し，障がい者と健常者が共にチームとして参加できる大会として開催する。また，このような障がいのある人とない人が一緒に参加できるスポーツ大会を開催・継続していく。

◇　関西全体のスポーツ愛好家が参加できる，新たな中高年層のスポーツ交流大会「関西シニアマスターズ大会」を関西広域連合構成府県市で開催する（第１回大会は徳島県）。

◇　より多くの高齢者が，「徳島県健康福祉祭」や「全国健康福祉祭」等に参加できるよう，競技開催団体との連携を強化するとともに，積極的なＰＲ活動を行う。

◇　本県が全国に向けて「自転車王国とくしま」のブランドを発信するため，サイクルスポーツを通じた新しい魅力を創り出すとともに，県内でのサイクルイベントの充実と継続的な開催を通じて，県民の運動実施率向上や健康増進，観光・文化の振興，環境対策

などに繋がる方策等を検討し，サイクルスポーツ先進県を目指す。

◇　香川県，愛媛県，高知県とともに，「サイクリングアイランド四国」としてサイクルスポーツのブランド化を目指す。

◇　女性がスポーツに参画しやすいよう，女性のニーズや取り組みやすい環境等について現状と課題を国，県内外大学等，専門機関と連携し，特に課題がある年齢層（中学３年生から高校１年生）や内容についての調査研究を行い，課題解決に向けた事業に反映させていく。

◇　県民のスポーツへの参加機会の拡大を図り，県民の無関心層をゼロにするため，スポーツをはじめるきっかけづくりとなるようなスポーツイベント等への助成や，スポーツ・レクリーションなど，誰もがとりくみやすいスポーツの普及に向けたイベントの開催，これらの情報発信などを行う。

◇　本県と企業との連携協定に基づき，スポーツイベントにおける企業所属アスリートの活用を図る。

◇　スポーツへの関わりを持ちづらい「育児中の女性」や「ビジネスパーソン」などへの運動習慣化メニューを提供する。

◇　「スポーツ指導者不足・指導者の資質向上」，「組織体制や財源基盤のぜい弱さ」などの諸課題を解決するために総合型クラブの基盤強化を行うとともに，総合型クラブを活用した「する」「みる」「ささえる」スポーツの多様な関わり方へのアプローチを推進する。

◇　各総合型地域スポーツクラブの自主的・主体的な運営を実現するために，法人格の取得を促進する。

◇　若手指導者及び審判員など，スポーツ活動を支える担い手不足解消のための取組をおこなう企業，大学，競技団体等を支援する。（再掲）

◇　通訳ボランティア団体等を活用し，通訳ボランティアの拡大，スキルアップを図り，国際大会の受入体制を充実させる。

◇　誰もが気軽に始めることができるウォーキングの習慣化を図り，運動習慣の定着による健康づくりを推進するため，ウォーキング大会への参加者の増加を促進する。

＜施策一覧＞

◎ノーマピック・スポーツ大会（徳島県障がい者スポーツ大会）の開催

◎レクリエーション・ボッチャ大会開催

◎「自転車でひろがるひと・まち」づくりプロジェクト

◎スポーツアプローチ推進事業

◎ Love&Fan!とくしまスポーツ活性計画助成事業

＜目標＞

☆徳島県障がい者スポーツ協会運営補助

推進

☆ノーマピック・スポーツ大会（徳島県障がい者スポーツ大会）の開催

推進

☆障がいのある人とない人がともに参加できるスポーツ大会の拡充

推進

☆人材バンク活用による障がい者スポーツ指導員の派遣

１１０件／年

☆県健康福祉祭等のスポーツ交流大会等参加者数

増加

☆高齢者の健康と生きがいづくりや広域的な交流促進

推進

☆サイクルスポーツ先進県を目指す

推進

☆他機関との連携による女性のニーズ調査

推進

☆成人の週１回以上のスポーツ実施率

６５％

☆１年間１度もスポーツをしたことのない者

０％

☆総合型地域スポーツクラブの法人取得等の自立を促進

推進

☆スポーツイベント，講座等への助成

２０件／年

☆ウォーキング・ラリーへの参加者

２，５００人／年

基本目標４　「ふれあいとくしま」の推進

親睦や交流の場としてスポーツに親しむ

「ふれあいとくしま」の推進

＜方向性＞

１．ソフト・ハード一体となった環境整備による新たなスポーツ聖地の創出
２．文化・食と連携したスポーツツーリズムによるとくしまの魅力発信
３．新たなスポーツ交流を通じた地域活力の醸成

＜現状と課題＞

▶ ソフト・ハード一体となった環境整備

今後，日本・関西において，２０１９（平成３１）年に「ラグビーワールドカップ２０１９」及び２０２０（平成３２）年に「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」並びに２０２１（平成３３）年に「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」が開催されます。

本県のスポーツ施設は，多くが１９９３（平成５）年に開催された東四国国体に向けて整備・改修されたものであり，老朽化が進行しています。また一方で，３大国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や競技会場準備においては，国際基準の施設整備が求められることになります。

３大国際スポーツ大会の開催は，県民のスポーツへの関心を高め，「競技力の向上」「地域活性化」「生涯スポーツの振興，健康増進」といった本県の抱える課題解決の絶好の機会と捉えることができます。この機会に，県民誰もが「レガシー」を実感できるよう，スポーツ施設のレベルアップを図る必要があります。

３大国際スポーツ大会の開催効果を本県に最大限引き込むため，積極的なキャンプ地の誘致活動や競技会場地の準備を推進する必要があります。

本県では，「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」で公式競技としてカヌー（スラローム），トライアスロン（トライアスロン／アクアスロン），ウエイトリフティング，ボウリング，ゴルフの６競技種目の開催が決定し，オープン競技としてマラソン，ラフティング，サーフィンが位置付けられる予定ですが，地元の機運をさらに盛り上げていく必要があります。

このように，スポーツ施設全般のレベルアップや「ワンランク上の大会の開催」，また，全国大会や合宿等の誘致による「インバウンドの推進」を図る必要があります。

▶ 地域のスポーツ拠点

競技・生涯スポーツの拠点となる体育施設の整備を進めるとともに，生涯スポーツの拠点及び南海トラフ巨大地震等発災時の防災活動拠点の両機能を備えた施設を整備しています。

▶ 本県における特色あるスポーツ

本県では豊かで美しい自然を活かして，サイクリングのほか，ラフティング，トライアスロン，グラススキー，カヌー，サーフィン，パラグライダーなどのアウトドアスポ

ーツが盛んであり，スポーツツーリズムにおいても活用することが可能です。

▶ 観光誘客

２０１０（平成２２）年４月から観光庁が策定した共通基準に基づき，観光入込客統計を実施しています。年間値のある２０１１（平成２３）年以降の観光入込客数は，増加傾向にあり，特に，イベント参加を目的とした観光入込客数が増加しています。「四国と近畿の結節点」という地理的特性を活かした，県外からの入込客の増加に取り組む必要があります。

▶ 県西部におけるスポーツツーリズムに向けた取組

近年増加している訪日外国人客に向けた新しい観光資源として，ラフティング世界大会開催や「にし阿波」の自然を活かしたスポーツツーリズムの展開が求められています。

▶ 県南部におけるスポーツツーリズムに向けた取組

２０１７（平成２９）年３月，県南部で体験することができるアウトドアスポーツのカタログ『南阿波アウトドア道場（第４版）』を発行しました。

今後，この冊子を活用し，国内外から誘客を図る必要があります。

▶「おもてなし」を通じた本県ＰＲ

本県は，ドイツを対象国としたホストタウンに２０１６（平成２８）年１月，１次登録しました。本県とドイツとは板東俘虜収容所，ベートーヴェン第九アジア初演の地という史実から，非常に深い関係にあり，ニーダーザクセン州と友好提携を結んでいます。

現在まで，ニーダーザクセン州への公式訪問団や，スポーツの分野ではナショナルチームの誘致など，積極的に取り組んでいます。

▶ スポーツを通じた国際交流

本県は友好交流提携を結んでいるニーダーザクセン州（ドイツ）や湖南省（中国）等とのスポーツ交流を実施しています。県内選手及び交流相手先の競技力の向上を図るとともに，スポーツを通じた国際相互理解を推進するため，今後も交流を継続する必要があります。

▶ 心のバリアフリーの推進

２０２０（平成３２）年「東京オリンピック・パラリンピック」の開催に向け，これまで以上に障がい者スポーツに対する理解を深め，機運の醸成を図る必要があります。パラリンピックを県民に幅広く広報・啓発することで，障がい者スポーツに対する理解が一層深まり，誰もが人格と個性を尊重し支え合う「共生社会の実現」が加速されます。

また，３大国際スポーツ大会では海外から多くの競技者が訪れることが期待されるため，海外競技者に対する県内競技団体や，受入自治体，地域住民の「心のバリアフリー」を推進するとともに，３大国際スポーツ大会の後には，キャンプ地等で訪れた海外競技者と地域との交流を「レガシー」として継続させていく必要があります。

▶ プロスポーツと県民のふれあい

「徳島ヴォルティス」と「徳島インディゴソックス」の両プロチームは，いまや徳島の誇り，シンボルとして定着し，次世代を担う青少年に夢や希望を与えるとともに，県民の活力となっています。

また，県がプロスポーツ等と地域との連携した取組を支援することは，プロスポーツ等の活性化とともに，応援の機運の醸成や経済効果，スポーツ人口の拡大にもつながります。

県内外からの，両プロチームのホームゲームへの来場を促進するために，今後もさらなる取組を実施する必要があります。

▶ ふれあう機会の確保

すべての県民がその自発性のもとに，各々の関心や適性等に応じて，日常的にスポーツに親しみ，スポーツを楽しみ，又はスポーツを支える活動に参画できる機会の確保が求められています。

県民が生涯にわたりスポーツに親しむためには，スポーツイベントを展開する各種の団体との連携・協働のもとスポーツに関する効果的な情報発信を行うことが必要です。

▶ 魅力あふれる情報発信

総合型地域スポーツクラブをはじめ，多くの事業主体は，その地域のニーズに応えるべく，魅力的なスポーツイベントを開催しています。本県としては，事業の実施を助成するだけでなく，ウェブサイトや，ＳＮＳ等を利用し，情報発信をしています。

＜施策の展開＞

◇　３大国際スポーツ大会のレガシーとして県内スポーツ施設の整備・改修を促進するとともに，県内競技関係者による一層の利用促進を図る。

◇　３大国際スポーツ大会の誘致対象競技に関する施設の整備を図る。

◇　３大国際スポーツ大会関連以外の施設についても，競技人口が多く，急務・重点となるものについては「先行的」な整備を図る。

◇　３大国際スポーツ大会のキャンプ地の積極的な誘致活動を展開するとともに，競技会場が決定した「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」の開催に向け，機運を醸成する。

◇　「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」のプレ大会を関係機関と連携のもと実施し，地元の機運醸成を図るとともに，受入体制の構築を図る。

◇　「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」の終了後は，同大会で構築したノウハウを各スポーツイベントにフィードバックし，より魅力的な大会を展開，地元と連携し地域活性化を図る。

◇　老朽化に対する長寿命化とともに，避難場所や広域応援部隊の活動拠点の候補地とされている施設については，防災拠点施設としての機能強化を図る。

◇　県西部において健康と防災の両面から利用できる西部健康防災公園の整備を図るとともに，広大なフィールドや施設の一体的な利活用を促進する。

◇　県南部における生涯スポーツの拠点作りのため，引き続き橘港小勝・後戸地区の緑地においてソフトボール場の整備を図る。また，県南地域においては「健康づくり」と「防災活動拠点」の機能を兼ね備えた拠点として，南部健康運動公園の整備を図る。

◇　「おどる宝島！パスポート」をはじめとする誘客コンテンツの整備，効果的な魅力発信や旅行商品の造成促進等による「①観光目的客の取り込み」，コンベンション誘致促進による「②ビジネス目的客の取り込み」，「東京オリンピック・パラリンピック」等の３大国際スポーツ大会を見据えた「③「訪日外国人４０００万人時代」に向けた取組」を核とする戦略的な取組を推進することにより，観光誘客を促進する。

おどる宝島！パスポートチラシ

◇　世界水準の「にし阿波」観光地域づくりの一貫として，ラフティング，ウェイクボードなどを活用したスポーツツーリズムを展開する。

◇　「自転車王国とくしま」のブランド力を県西部での観光振興に生かすため，「ツール・ド・にし阿波」を利用した「にし阿波」振興のためのＰＲイベントを行う。

◇　観光商談会やファムツアー*9 などで『南阿波アウトドア道場（第４版）』を，スポーツツーリズム展開の素材集として活用，県南のＰＲを図り，「四国の右下」をサーフィンやトライアスロン等，アウトドアスポーツのメッカにする。

◇　外国人対応可能な事業者およびプログラムなどの内容を見直し，『南阿波アウトドア道場』冊子の多言語化（英語・繁体字）を行う。

『南阿波アウトドア道場　4th edition』

◇　ホストタウンとしての特徴ある取組として，産学官連携組織「東京オリパラ『阿波ふうど「食」のおもてなし』推進協議会（仮称）」による「徳島ならでは」の「食」と「文化」を活用した国際交流を推進する。

◇　上記推進協議会を中心に「ＧＡＰ対応*10」「加工品やメニュー開発」「モニターツアーの検討・実施」「オリパラ対応食材の周知」等を計画的に実施する。

◇　ドイツや中国等と，カヌー，柔道をはじめとするスポーツ分野での交流を実施する。

◇　障がい者トップアスリートが，小・中・高等学校，特別支援学校を訪問し，自身の経験や競技の魅力を伝え，障がい者スポーツの理解を深めるとともに，パラリンピックの機運を盛り上げる。

◇　ラグビーワールドカップ２０１９及び東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致対象国の競技関係者と県内の子どもたちを中心に積極的に交流を行う。

◇　県民が地元スポーツチームを応援することにより，スポーツへの関心や地域の活力，連帯感を高められるため，プロスポーツ選手と県民が交流し，スポーツの楽しさや喜びを体験することができるイベントを開催する。

◇　子どもたちへの指導や普及活動等，プロスポーツチームが取り組む地域貢献活動を促進し，子どもたちに夢や希望を与え，青少年の健全育成を図る。

◇　プロスポーツ等の試合による経済波及効果を高めるため，試合会場でのイベントの開催や，施設の整備等を充実し，交流人口の拡大を図る。

◇　県外の企業や大学等のスポーツ合宿を誘致することにより，県内スポーツ施設，宿泊施設等の利用促進，合宿を通じた交流人口の増加や観光客としてのリピーター確保を図る。

＊９　familiarization tour の略。観光誘客促進のため，旅行会社などによる現地視察ツアー。

＊１０　Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略。対応することによって，持続可能性の確保，競争力の強化，品質の向上，農業経営の改善や効率化，消費者や実需者の信頼の確保が期待される。

◇　スポーツに対する県民の関心と理解を深めるとともに，スポーツへの県民の参加及び支援を促進するためのスポーツイベントを開催する。

とくしまマラソン大会

◇　本県の魅力発信，県民スポーツの振興，健康増進及び交流人口の増加による地域活性化を図るため「とくしまマラソン」の開催を支援する。

◇　Love&Fan サイトを媒体とし，総合型地域スポーツクラブ等が実施する魅力あふれるスポーツイベントを広く周知する。

◇　「自転車王国とくしま」の Facebook により，同取組をはじめ，広くサイクルスポーツ関連の話題やその他の取組を広く周知する。

＜施策一覧＞

◎体育施設の整備拡充・長寿命化

①鳴門・大塚スポーツパーク（ポカリスエットスタジアムトラック改修・球技場芝生の改修）

②ＪＡバンク蔵本公園（ちょきんぎょプール改修）

③県立中央武道館（空調設備・受電設備改修）

④南部健康運動公園（陸上競技場の整備）

⑤橘港小勝・後戸地区緑地（ソフトボール場の整備）

◎外国語（英語・繁体字）版『南阿波アウトドア道場』の作成

◎「ＧＡＰ対応」等徳島ならではの「食」のおもてなしの推進

ホストタウンとして，「ＧＡＰ対応」，「オリパラ対応食材の周知」等を計画的に実施する

◎４大モチーフを活用したあわ文化の発信

国民文化祭において徳島を代表する文化として位置づけられた，「阿波藍」，「阿波人形浄瑠璃」，「阿波おどり」，「ベートーヴェンの第九」を活用してあわ文化を，ホストタウンにおける特徴ある取組として活用する

◎「あわっ子文化大使」によるあわ文化体験ツアーの実施

◎「徳島ヴォルティス」ホームタウンデー等イベントの開催

◎「徳島インディゴソックス」ホームゲームに招待

◎「とくしまマラソン」の開催

＜目標＞

☆キャンプ地及び競技会場の誘致

３件（平成３０年度までの累計）

☆ラグビーワールドカップ２０１９事前キャンプの決定

１件

☆「とくしまカヌー・レガシーセンター」の整備・利用促進

推進

☆「関西マスターズスポーツフェスティバル」県内大会参加者

１５，０００人

☆鳴門・大塚スポーツパーク球技場芝生の改修

推進

☆既存の体育施設の長寿命化・防災機能の強化

推進

☆県立中央武道館空調等の整備

推進

☆橘港小勝・後戸地区の緑地整備

ソフトボール場３面供用（平成３０年度）

☆南部健康運動公園の整備

推進

☆ドイツ，中国等とのスポーツ分野での国際交流

推進

☆海外競技者との国際スポーツ交流件数

５件

☆障がい者トップアスリート講演会

１０回／年

☆徳島ヴォルティスホームタウンデー等イベント参加者数

１０，０００人

☆徳島インディゴソックスホームゲーム招待者数

１，０００人

☆各種大会の利用環境の向上

推進

第４章　計画の推進体制

１　推進体制

県は，基本理念・基本目標の実現に向け，市町村，市町村教育委員会，県体育協会，県スポーツ振興財団，競技団体，総合型クラブほかスポーツ関係団体，県内大学・企業などとの連携・協働により，本計画に盛り込まれた各種施策を効果的・効率的に実施します。

さらに，徳島県スポーツ推進審議会を定期的に開催し，基本目標ごとに掲げた施策目標の達成状況の評価を行います。

２　役割分担

（１）行政の役割

①県の役割

・市町村で行うのが困難な広域的事業を実施し，市町村等への助言・支援を行います。

・地域の実情に応じた独自性のあるスポーツへの取組を支援します。

・県内外に向けてスポーツのイベントや施設の情報を発信します。

・スポーツ関係団体や企業，プロスポーツ，大学と連携・協働を図り，人材の交流やスポーツ医科学等の知識普及について，全県域での展開を図ります。

②市町村の役割

・国の『スポーツ基本計画』，県の『徳島県スポーツ推進計画』を参酌して，地域の実情に即したスポーツの推進に関する計画を策定することが求められています。

・住民のスポーツに関するニーズを把握し，地域のスポーツ団体や関係機関と連携しながら，住民がスポーツに親しむために必要な環境を整備し，体制を整えることが求められます。このことから，スポーツに関する団体等が一堂に会する場を設定するなどの調整・推進役を担うことが求められます。

・地域において熱意と能力があり，効果的に連絡調整できる者を，スポーツ推進員として委嘱し，その資質向上のための研修の充実を図ることが期待されます。

・地域の実情に応じて，公共スポーツ施設の指定管理者として総合型クラブを積極的に活用することが期待されます。

・地域の特色を活かした競技会の開催や地元選手の育成・強化・応援，国際大会や全国大会で活躍した選手等を表彰することによる，スポーツを通じた地域の活性化が期待されます。

（２）教育機関等の役割

①幼稚園・保育所の役割

・幼児期から体を動かした遊びに取り組む習慣や望ましい生活習慣を身につけさせるための取組を行うことが求められます。

②小・中・高等学校の役割

・学校施設を地域に開放して，地域のスポーツ活動の場として提供することが期待されます。

・子どもにスポーツの楽しみや喜びを伝え，子どもが生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに，体力の向上を図り，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育むことが求められます。

・運動部活動においては，地域や学校の実態に応じ，地域の人々の協力を得られる体制づくり，社会体育施設や社会体育関係団体等との連携が求められます。

③大学の役割

・行政や企業，県体育協会や他の教育機関との連携により，スポーツ医科学研究や人材の交流，施設の開放，ジュニアアスリートの発掘・育成等に取り組むことが期待されます。

・学生によるスポーツボランティア活動等の地域貢献活動を支援することが期待されます。

（３）スポーツ団体等の役割

①スポーツ関係団体の役割

＜競技団体＞

・県体育協会と連携し選手の強化，指導者の資質向上を図ることや，各競技の普及に努めることなどが期待されます。

・プロスポーツや企業，大学等と連携し，ジュニア期からの一貫した指導体制を確立していくことが期待されます。

・トップアスリートや優れたスポーツ指導者等を総合型クラブや地域スポーツクラブ，学校等へ派遣することが期待されます。

・スポーツ指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会等に取り組むことが期待されます。

・各団体が有するスポーツ指導者情報を広域スポーツセンターへ提供し，団体間の共有化を図っていくことが期待されます。

・団体運営の透明性の確保を図っていくことが期待されます。

・選手の将来的なキャリア形成にも配慮した適切な支援に努めることが期待されます。

＜県体育協会＞

・競技団体を統括する団体としての役割を踏まえ競技団体の競技力向上及び運営の透明性の確保を図っていくことが期待されます。

＜県レクリエーション協会＞

・広く県民のスポーツ・レクリエーション活動のニーズに対応するため，指導者の育成と研修や様々なプログラムの展開，情報の収集と提供が期待されます。

＜県障がい者スポーツ協会＞

・障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境づくりや競技力の向上に取り組むことにより，総合的な障がい者スポーツの振興を図り，障がい者の健康増進や社会参加を促進するとともに，障がいに対する県民の相互理解を深めることが期待されます。

＜スポーツ少年団＞

・スポーツとの多様な関わり方の場の提供とともに，教育機関との連携等を通じて，中学生や高校生等の地域スポーツへの参加を促進する取組を行うことが期待されます。

＜小・中・高等学校体育連盟＞

・主催する大会等について，県や市町村と協議しながら総合型クラブで活動する生徒等の参加を認めたり，地域スポーツクラブの大会との交流大会を実施したりするなど，柔軟な対応が図られるよう検討することが期待されます。

＜県スポーツ振興財団＞

・広く県民のスポーツやスポーツ・レクリエーション活動のニーズに対応するため，指導者の養成と研修や様々なプログラムの展開，情報の収集と提供が期待されます。

＜徳島県スポーツ推進委員連絡協議会＞

・スポーツ推進委員が市町村のスポーツ推進のための事業の実施にかかる連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導，その他スポーツに関する指導及び助言を行うため，スポーツ推進委員の資質の向上に努めることが期待されます。

＜総合型クラブ・地域スポーツクラブ[*11]＞

・子どもと保護者・家族が，異年齢の子どもや多世代の大人とともにスポーツに親しむことができるよう，幅広い世代の参加者を確保したクラブ運営が期待されます。

・スポーツ指導者に対し，学校の体育に関連する活動に対する理解の促進を図ることが期待されます。

・地域住民が主体的に取り組み，スポーツ活動を推進することにより，地域のコミュニティの核として充実・発展していくことが期待されます。

②プロスポーツや企業スポーツの役割

・スポーツ教室の開催や指導者としての地域への派遣のほか，社会貢献活動による地域との共生を目指した活動が期待されます。

・観光振興の大きな資源となり，試合観戦などで交流人口を拡大させるとともに，地域経済を活性化させることが期待されます。

＊１１　総合型クラブに限らず，スポーツ少年団やスポーツチームなど地域で活動するスポーツクラブを指す語。

（４）県民の役割

①県民に期待される役割

・県民一人一人が生涯にわたりスポーツに主体的に取り組み，健康で豊かな生活を送ることが期待されます。

・県民一人一人が地域のコミュニティの一員として，スポーツを通じて自らも地域社会を構築していくことが期待されます。

②企業に期待される役割

・地域社会の一員として，スポーツ振興を通じて利益を地域に還元することは，社会的にも意義のあることであり，企業価値の向上に欠かせないものであることから，企業の「社会貢献」「地域共生」の観点からスポーツへの支援が期待されます。